

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-206447

(P2005-206447A)

(43) 公開日 平成17年8月4日(2005.8.4)

(51) Int. Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
C03C 17/30	C03C 17/30	B 3B117
B08B 17/00	B08B 17/00	3D025
B60J 1/00	B60J 1/00	G 3K051
B60S 1/02	B60J 1/00	H 4G059
C03C 17/34	B60S 1/02	A 4H020
審査請求 未請求 請求項の数 43 O L (全 56 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2004-265246 (P2004-265246)
 (22) 出願日 平成16年9月13日 (2004. 9. 13)
 (31) 優先権主張番号 特願2003-323945 (P2003-323945)
 (32) 優先日 平成15年9月17日 (2003. 9. 17)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)
 (31) 優先権主張番号 特願2003-424058 (P2003-424058)
 (32) 優先日 平成15年12月22日 (2003. 12. 22)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

(71) 出願人 503002662
 小川 一文
 徳島県板野郡土成町土成字寒方50-3
 (72) 発明者 小川 一文
 徳島県板野郡土成町土成字寒方50-3
 Fターム(参考) 3B117 AA01 AA08 BA51
 3D025 AA01 AC20 AD02 AD03 AD04
 3K051 AB02 AD34 AD38 AD40 CD44
 CD46
 4G059 AA01 AC22 EA05 EB02 EB07
 FA22 FB05 GA01 GA02 GA04
 GA11 GA16
 4H020 BA36

(54) 【発明の名称】 撥水撥油防汚性ガラス板とその製造方法及びそれを用いた自動車と電磁調理器

(57) 【要約】

【課題】 従来の化学吸着膜を用いた撥水ガラス板は、吸着剤と基材表面との化学結合を用いているため、耐摩耗性に乏しいという課題があった。また、製造時に塩酸が発生するという課題があった。

本発明は、撥水撥油防汚機能が要求される自動車や建物の窓用あるいは電磁調理器のトッププレート用ガラス板において、耐摩耗性および耐候性、水滴離水性に優れた撥水撥油防汚ガラス板を提供すること、及び前記ガラス板を塩酸を発生させることなく製造して提供することを目的とする。

【解決手段】 前記目的を達成するため、本発明のガラス板の製造には、アルコキシシラン系界面活性剤を用い、高耐久性の撥水撥油防汚性被膜をガラス板表面に脱アルコール反応で形成する。また、本発明のガラス板は、前記被膜に少なくともフッ化炭素基と炭化水素基とシリル基を主成分とする物質とシロキサン基を主成分とする物質を含む複合膜を少なくとも1層含ませておくことを要旨とする。

【選択図】 図1

